

令和元年度 北九州市発達障害者支援モデル事業

アセスメントツール開発

I. 事業要旨

発達障害児者は、環境や支援により状態像が著しく変わることもあり、支援者が個々人の状態やニーズを明確にし、適切な支援につなげることで、その情報を引き継いでいくことが重要である。そのため、市内のどの支援機関においても、同じアセスメントツールを活用できるよう展開することが望まれる。市内の事業所を対象に実施したアンケートにおいても、事業種や対象としている発達障害児者の年齢等によって、必要なアセスメント情報は異なるが、共通したアセスメントツールがあれば活用したいという意見が複数あった。

北九州市には、発達障害の子をもつ親の会三団体に協力いただき作成したサポートファイル「りあん」がある。本人の状態を整理するために必要な情報が、概ね網羅されており、事業所にインタビューを行った際にも、「りあん」を有効に活用できると良いのではないかという意見が複数あった。そこで、平成 30 年度は、放課後等デイサービスを主な対象機関とし、事業所の実態に即したツールを作成するため、実務者によるワーキンググループを設置し検討を行った。「りあん」の情報を保護者や関係機関が有効に活用するために、①「りあん」の形態を大きく変えずに活用できるようにすること、②経験や知識の少ない支援者でも、発達障害の特性や個々人の状態を整理できるように、観察や情報収集のためのポイントをわかりやすく示すこと、③個別支援計画につなげられるように配慮することとし、「りあんを活用したアセスメントの手引き」（放課後等デイサービスなど学齢期を対象）を作成した。

ワーキンググループ参加メンバーの職場で実際に対象児を決めて、記入してもらったため、今年度は、活用する場合に難しいと感じることと、事業所で活用することへの可能性等について、アンケートを実施した。結果を踏まえ、「記入例」を作成するとともに、「りあんを活用したアセスメントの手引き」（放課後等デイサービスなど学齢期を対象）、「記入用紙」、「記入例」を、つばさのホームページ上に掲載し、記入の仕方や、活用方法について、希望の事業所には、訪問して説明を行うことを記載した。

今年度は、成人期を対象とした、「手引き」の試行版を作成したため、3月初旬に成人期を対象とした4つの障害福祉サービス事業所に、協力依頼を行った。4月の、利用者のアセスメント、個別支援計画作成の期間に、対象者を決めて活用してもらい、5月初旬にアンケートを回収する予定である。対象の施設は、学齢期と同様、平成 29 年度に実施したインタビューの結果を参考にして、依頼を行った。「りあん」では、職業に関する項目が少ないが、就労移行支援事業所などの現場では、障害者職業総合センターが作成した「就労移行支援のためのチェックシート」等のツールが積極的に活用されているため、生活介護事業所や、就労継続支援 B 型事業所などを対象とした。アセスメントを実施してもらった後に、アンケート調査後、協力事業所の意見を参考に、見直しを行い、ホームページに掲載

する。また、アセスメントツール普及のための、活用方法についての研修会や、希望がある事業所への説明会を実施する。

II. 事業の実施経過

1. 「りあんを活用したアセスメントの手引き」(放課後等デイサービスなど学齢期を対象)作成について

(1) ワーキンググループによる試行版使用とアンケートの結果について

ワーキンググループの所属機関において、平成31年3月25日～4月末日までの間に、対象者を決めて、「りあんを活用したアセスメントの手引き」を用い、アセスメントを行ってもらった後に、アンケートへの記入を依頼した。

アンケート送付は、5月13日に行い、記録用紙とアンケートの回収期間を5月末日までとしたが、対象機関の都合等により、回収終了は、8月初旬となった。

アンケート結果は、資料1-2の通りである。

アンケート記入者は、放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者3名と、児童入所施設の児童発達支援管理責任者1名(経験年数は、9年～20年)である。提供してもらった記入用紙には、社会性やコミュニケーション、行動などについても、詳細に、また、具体的に記載されていた。記入に3時間かかった事業所では、敢えて、経験の浅い職員に書いてもらい、児童発達支援管理責任者であるメンバーが、サポートしたということであった。また、ある事業所は、タイプの違う2名(高機能と重度の知的障害)を対象に、アセスメントを行ったが、パソコンが使用出来ない職員もいるため、敢えて手書きで記載してみたところ、記入自体は、それぞれ、45分と、1時間だったということである。

記入後のアンケート結果では、記入してみて、「より対象者の理解が深まった」、「他職員と一緒に記入することで、職員間で理解が深まった」等の意見がある一方で、難しい点としては、「情報量や作業量の多さ」とともに、「記入に時間を要するため、全ての利用者に対して実施する事は難しい」などの意見があげられている。その他、「記入例があった方が良い」という意見や、入力欄のセルを結合しておくなどし、パソコンで書き込みやすいようにしてほしいという意見等があった。

活用の可能性としては、「情報を整理活用するために有用」など、全てのメンバーが有効と感じており、「成長段階を把握するためにも、全ては難しいので一部活用してみたい」、「特定のケースの理解を深めるために用いたり、職員教育のために用いることは可能」などの意見があった。

(2) 記入例の作成とホームページへの掲載

アンケートの中に、記入例があった方がわかりやすいという意見があったため、小学校低学年の、自閉スペクトラム症の児を想定し、「記入例」を作成した。「りあんを活用したアセスメントの手引き(放課後等デイサービスなど学齢期を対象)」、「記入用紙」、「記入例」、を、令和2年1月に、つばさのホームページ上に掲載した。

(3) 普及のための説明会等について

事業所を訪問しての説明会については、ホームページ上で案内している。現在までに依頼はないが、児童期版を、成人の対象者に使用する事は可能かという問い合わせが一件あった。今後、希望の事業所があれば、説明会を実施する。

2. 「りあんを活用したアセスメントの手引き（生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所など成人期を対象）」の作成について

(1) 試行版の作成

成人期においては、職業スキルも、重要なアセスメント項目であるが、就労移行支援事業所等においては、障害者職業総合センターが研究・開発しているチェックシート等が、すでに活用されているため、「りあんを活用したアセスメント」では、障害福祉サービス事業所を、一定期間継続して利用することが想定される、生活介護事業所や、就労継続支援 B 型事業所等を利用している成人期の利用者を対象とした。

活用するサポートファイル「りあん」のページについては、学齢期と同じ、「成長の過程」と、「現在の状態」①のページを使用し、成人期に更に必要と考えられる項目や、成人期のアセスメントの留意点や、目標の考え方を追加し作成した。（試行版では、追加した箇所の文字を斜体字で表記している。）

「りあんを活用したアセスメントの手引き（生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所など成人期を対象）」（試行版）は、資料 1－3、記入用紙は、資料 1－4 の通り。

(2) 成人期の施設への協力依頼

① 対象事業所の選定について

メンバーの選定については、平成 29 年度に実施した、障害福祉サービス事業所のインタビュー結果等を参考に、「りあん」を活用している、あるいは、今後の活用を期待している事業所や、アセスメントに対する意識が高いと考えられる事業所、発達障害の方を多く支援している事業所の中から以下の 4 事業所を選定し、依頼を行った。

- ・ 生活介護事業・就労継続支援 B 型事業所 A サービス管理責任者
- ・ 生活介護事業・就労継続支援 B 型事業所 A 支援員
- ・ 自立訓練事業所（生活訓練） 支援員
- ・ 自立訓練事業所（宿泊型自立訓練） 支援員

② 「りあんを活用したアセスメントの手引き（生活介護事業所、就労継続支援 B 型事業所など成人期を対象）」作成のスケジュール

令和 2 年 2 月に、対象事業所に趣旨を説明し、協力依頼を行った。対象事業所に集まってもらい、試案についての意見交換を行う予定であったが、新型コロナウイルス対策により中止した。そのため、個別に訪問し、試案についての説明を行った。アセスメントの対象者を決めて「りあんを活用したアセスメントの手引き」（成人期の福祉サービス事業所利用者を対象）（試行版）を用いてもらう事と、記入用紙、事後アンケートの提出を依頼した。

各事業所では、「成長の過程」について、事業所を利用するまでの経過情報が無いということであったため、情報収集が可能な範囲で記入してもらうこととした。5月初旬にアンケートを回収し、意見を参考に改定版を作成する。アンケート用紙は、資料1－5の通り。

(3) 普及のための取り組み

成人期版についても、つばさのホームページ上での掲載（「手引き」、「記入用紙」、「記入例」）を行うとともに、事業所での説明会の希望を募る。また、児童期版とともに、障害福祉サービス事業所（放課後等デイサービス、生活介護、就労継続支援B型事業所、自立訓練事業所等を対象とした説明会を企画し、参加を募る。

III. 考察

市内で共通して用いることが出来る、アセスメントツールを検討する中で、サポートファイル「りあん」を活用することができたことは、今回の取り組みにおける一番の成果であると考えられる。「りあん」は、本人の所属機関や、ライフステージが変化しても、情報を共有していくことができるように、という願いのもとに作成された。しかし、基本的には、家族が記入するものであり、記入に慣れていない家族には、記入が難しい箇所があることや、記入量が多い事などから、地域で十分活用されにくい側面があった。しかし、障害福祉サービス事業所等の支援者が、アセスメントツールとして活用することで、「りあん」の長所でもある、①現在の本人の状態や発達障害の特性を整理することができるとともに、経過を追うことが出来る、②家族が持つサポートファイル「りあん」と、同じものを使用する事で、家族と関係機関間が情報を共有できやすくなる、③手引きを活用することで、アセスメントのポイントが、発達障害の知識が少ない支援者でもわかる。（家族も記入の際に活用できる）等のメリットがあると考えられる。

成人期版（試行版）を作成する過程で、児童期も成人期版を活用した方が、将来身につけるべき生活スキルなどを、見通すことが出来て良いのではないかと考えられた。そのため、成人期（試行版）のアンケート回収後は、内容を精査するとともに、成人も児童も使用出来るよう、ツールの一本化を検討したい。内容を、各障害福祉サービス事業所の機能や本人の状態に合わせてアレンジして使用することができる事を、手引きにも明記し、必要に応じて項目を増やしたり、別添で資料を追加するなどして、アセスメントツールとしての「りあん」を有効に活用してもらいたいと考える。

課題としては、普及啓発と、個別支援計画への反映が挙げられる。普及啓発については、ホームページで紹介するだけでなく、市内の障害福祉サービス事業所を対象とした、説明会を開催する。また、併せて、つばさが個別のケース相談や機関コンサルテーションを実施する中で、活用を提案していきたい。初めてアセスメントツールとしての「りあん」に記入する際には、確認しなければならない項目も多く、時間がかかるが、家族や、相談支援事業所が同じツールに記入することで、情報の集約が出来やすくなり、また、アセスメント情報を参考に、支援目標や支援計画を確認、共有していくツールとしても、活用が期待出来ると思われる。

「りあんを活用したアセスメントの手引き」(放課後等デイサービスなど学齢期を対象)使用についてのアンケート 結果

1 記入しやすさについての感想を記入してください。

- ・どのように記入すればよいか迷う人もいると思う。HPの記入例や、資料を参考にすると記入しやすかった。
- ・PCからダウンロードする際に、入力しやすいように、セルを結合しておくとういと思う。
- ・ボリュームがあると感じた。
- ・嫌いなこと、苦手なこと等を記入してしまいがち。また、一人で書くと、情報が偏ってしまう可能性がある。

2 記入に要した大体の時間を記入してください。

- ・45分、60分(2名記入)
- ・1時間程度
- ・70分程度
- ・3時間程度

3 記入することで、対象者についての理解が深まった点がありましたか。

深まった点がある場合は、具体的に記入してください。

- ・新たな課題を見つけたり、気づきがあった。
- ・どのような支援が必要かが見えてくるため、利用者に関しての職員間の共通理解も深まると思う。
- ・項目を絞って、又は、視点を変えて、利用者の特性について考えることが出来た。
- ・アセスメントを、他の職員と情報共有しながら記入することで理解が深まった。
- ・項目別で分けて考えることで、より特性理解に繋がったと思う。
- ・保護者、スタッフ間で話をする機会にもなり、情報が集まりやすく、理解が深まった。

4 対象者を理解するために、不足している情報や、変更したほうが良い点を教えてください。

不足している情報や変更したほうが良い点等を、具体的に記入してください。

- ・日常生活能力の備考欄は、(※)他のところと被ることが多いため、リンクさせた方が見やすくなると思う。(※ スキルの問題ではなく、感覚やコミュニケーションの問題から、自立して行えない場合などがある。)
- ・食事形態:咀嚼能力など、家事:自分の荷物の片付けの可否、コミュニケーション:IT機器の使用
- ・自由記述欄に、より具体的な記入例があると良い。

5 このツールを、現場で活用することへの可能性について、ご意見をお聞かせください。

- ・職員が記入するのは、かなり時間を要するため難しいが、記入されたものを活用することは情報としては役立つと感じる。
- ・成長段階を把握するためにも、活用してみたいと思う。(すべては難しいので、一部活用など)
- ・利用者の情報が整理できたり、分かりやすくなるので、是非利用したいが、事業所のアセスメントとして活用できるかによる。(行政がOKかどうか。)
- ・情報も評価方法も分かりやすくなり、サポートブックとしての活用の可能性は高いと思う。
- ・持ち込まれた場合には、大変有用だと思うが、現場で全ケースを対象とすることは難しいと思う。
- ・特定のケースの理解を深めるために、事例として用いる、または、職員教育のために用いることは可能と考える。

6 このツールを、活用する場合に、難しい点はどのようなことですか。

- ・様々な障害特性を持つ方が利用しているため、全ての人に使用するの難しいと感じる。
- ・情報量が多いため、確認し、見直しを図ることが難しいかもしれない。
- ・項目が多く記入に時間がかかる。
- ・誰もが記入できるようにするには、相応の知識が必要になる。
- ・既存のアセスメントがあり、作業量が増えることに難しさを感じる。
- ・スマートフォンやタブレットでの使用が可能になると良い。

7 現場で活用する場合に、どのような支援が必要ですか。最も有効だと思うものに丸を付けてください。

(○の数)

① ツールの活用方法についての研修会	2
② ツールの活用方法についての職場の勉強会への講師派遣	4
③ つばさのホームページに、マニュアルや、記入例を掲載し、自由に閲覧できるようにする	2
④ その他（有効だと思う方法を、自由に記述ください）	0

サポートファイル「りあん」を活用したアセスメントの手引き
(生活介護事業所、就労継続支援B型事業所など成人期を対象) 試行版

※ 「成長の過程1, 2」では、幼少期の本人の特性がどのようなものか、又どう変化したかを記入します。

●成長の過程1 <関連の時期に斜線を記入します>

＜記入例＞●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人でいるのを好む	/	/		
●社会性					
		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人でいるのを好む				
2	視線が合いにくい				
3	受身的で自らは関わりを求めない				
4	積極的に関わるが一時的になりやすい				
5	友達関係を築きにくい				
6	周囲の人の感情に気づきにくい				
7	集団の中で浮きやすい				
8	常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9	身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10	口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11	自分が非難されると過剰に反応する				
12	からかわれやすい・いじめを受けやすい				
その他					
●コミュニケーション					
		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	表情が乏しい・不自然				
2	言葉での指示は理解が難しい				
3	細部にこだわり難しい言葉を使う				
4	自分の興味あることを相手構わず話す				
5	言外の意味や皮肉を理解できない				
6	言葉使い・声の調子や音が独特である				
7	会話が一方通行・応答にならない				
8	共感する動作が少ない～うなずく・身振り等				
9	状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10	独り言が多い				
その他					
●イマジネーション					
		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	手を振るなどの常同行動がある				
2	物集めや情報記憶に熱中する				
3	お決まりの行動パターンがある				
4	変化を嫌い、いつも通りを好む				
5	初めての場所や人は苦手である				
6	興味を示すものに偏りがある				
7	気持ちの切り替えが苦手である				
8	突然の事や急な予定変更は混乱する				
9	物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				
その他					

() さんのファイル 記入者氏名 () 続柄 () 記入年月日 (年 月 日)

●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 耳ふさぎや音に敏(鈍)感な様子がある				
2 光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3 水などの特定の触感を好む(嫌う)				
4 物のおいをよく嗅ぐ				
5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)				
6 痛みに敏(鈍)感である				
7 暑さ・寒さに敏(鈍)感である				
その他				
●不注意・多動・衝動性	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 うっかりミスが多い				
2 注意を集中し続けることが難しい				
3 話しかけても聞いていないようにみえる				
4 仕事をやり遂げることが難しい				
5 物事を順序立てて行うことが難しい				
6 努力を要する課題を避ける				
7 なくし物が多い				
8 注意がそれやすい				
9 忘れっぽい				
10 手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11 静かな活動に参加することが難しい				
12 じっとしていない				
13 しゃべりすぎる				
14 質問が終わる前に答えてしまう				
15 整理や片付けができない				
その他				
●その他	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 体の使い方がぎこちない				
2 手先が不器用である				
3 寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4 偏食や過食がある				
5 書くことがとても苦手である				
6 読むことがとても苦手である				
7 歩き方・姿勢の異常がある				
8 人の顔が覚えられない				
9 興味のある分野の知識が豊富である				
その他				
●困った行動	0歳	6歳	12歳	18歳以上
1 自分を傷つける				
2 他人に粗暴な行為をする				
3 物を壊す				
4 水分を多飲する				
5 性的な行動が逸脱している				
その他				

()さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)

II. 現在の状態 ①

●所属機関

所属機関名(学年)：	所属機関先：〒
------------	---------

●健康

●身長() cm ・ 体重() kg ・ 平熱() 度
●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患() > 具体的な症状と対処方法： _____ _____
●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他() > 具体的な症状と対処方法： _____ _____
●服薬の有無 < 有 ・ 無 > ※医療機関に関する情報は、P28 へ。 管理・服薬の仕方： _____ _____
●「痛み」「不快」(頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状)の訴え方 観察のポイントと対処方法： _____ _____
●治療に関しての特記(治療に関する約束や手順など) _____ _____
●睡眠について _____ _____

●食事

●食欲や偏食 (あり ・ なし) _____ _____
●好きな食べ物・飲み物(成人期の場合は、嗜好品も含む) _____ _____
●苦手な食べ物・飲み物 _____ _____

() さんのファイル 記入者氏名() 続柄() 記入年月日(年 月 日)
#

「成長の過程1、2」について

本人の発達障害の大まかな特性や、適応状態を把握出来るようになっていきます。(詳しい状態整理は、「Ⅱ現在の状態①」で行います。先に「現在の状態①」で状態整理を行うと、記入しやすいでしょう。)

発達障害のある人は、幼児期に現れていた特性が、発達とともに目立たなくなっていくことがあります。しかし、不適切な支援や環境下に置かれると調子を崩し、特性が強く現れたり、出来ていたことが出来なくなったりします。幼児期の情報、各ライフステージごとの情報を把握しておく、ご本人の今の状態を理解する手掛かりとなります。

<各カテゴリーについて>

・「社会性」、「コミュニケーション」、「イメージネーション」、「感覚過敏」は、自閉スペクトラム症(自閉症、広汎性発達障害、アスペルガー症候群)の主な特性です。

・「不注意・多動・衝動性」は、AD/HD 注意欠如多動症(注意欠陥多動性障害)の主な特性です。

・「その他」には、限局性学習症(学習障害)の特性や、運動面、知的機能のアンバランスなどの特性が含まれています。

・「困った行動」には、自傷や他傷行動などの行動問題の有無を記載します。

<記入の仕方>

・各項目にある行動の変化が見られた時期に斜線を引きます。

・気付いた事や特記事項はその他に記入します。「いつ頃」、「どのような様子があったか」を記入します。

項目についての補足説明		
●社会性	5 友達関係を築きにくい	・年上や年下の人とばかり遊び、同級生との関係を気づきにくい場合なども含まれます。 年齢相応の交友関係があるかどうかを記載します。
●コミュニケーション		・「独特のイントネーションや、「エコラリア(オウム返し)」、「繰り返し同じことを聞く」などの特徴や、「言葉がない場合」や、「幼児期の言葉の遅れの有無」などは、「その他」に記載しておきましょう。
●イメージネーション	1 手を振るなどの常同行動がある	・常同行動とは、手をひらひらとさせたり、上半身を揺すったり、繰り返し飛び跳ねるなど、身体を同じやり方で繰り返し動かす行動のことをいいます。
	4 変化を嫌い、いつも通りを好む	・順番、やり方、人、場所、物の配置や物の状態の変化、衣替えなど、様々な変化が含まれます。
	6 興味を示すものに偏りがある	・年齢相応でないものや、通常は興味の対象とならないものに興味をもったり、特定のジャンルのものに強く関心を示すことなどがあります。
	7 気持ちの切り替えが苦手である	・している事を中断して、次の行動に移ることが難しい場合や、なかなか気分転換が出来ず、気持ち切り替えのに時間がかかる場合などが含まれます。
	9 物のある一部分に注意が向き、没頭してしまう	・物を本来の目的とは違うやり方で繰り返し扱うことなどを言います。(例:本のページめくりや紙破りに没頭する、エレベーターのボタンを繰り返し押す、物の一部を見つめ続けたり繰り返し触る、ビデオの特定場面を繰り返し見るなど。) ・感覚あそびへの没頭がある場合は、「その他」に記載しておきましょう。

項目についての補足説明		
●感覚過敏		<ul style="list-style-type: none"> ・感覚が過敏であったり、鈍感であったりします。 ・聴覚、視覚、嗅覚、味覚、触覚のほか、気温や気圧の変化に影響を受けやすい場合や、前庭覚や固有受容覚に特徴をもつことがあります。 ・前庭覚とは、自分の身体の傾きやスピード、回転を感じる感覚で、ちょっとした揺れで気分が悪くなる場合や、激しく回転しても目が回らないことなどがあります。 ・固有受容覚とは、自分の身体の位置や動き、力の入れ具合を感じる感覚です。身体をぎゅっと締め付けられるような感覚が好きな場合や、力のコントロールが出来にくく物をすぐに壊してしまう、自身のボディイメージが弱く、身体をよくぶつける事などがあります。
●不注意・多動・衝動性	4 仕事をやり遂げることが難しい	・集中できない、あれこれ手をつけてしまうなどにより、最後までやり遂げることが難しいことがあるかを評価します。
	5 物事を順序立てて行うことが難しい	・手順を覚える、優先順位を考えて取り組む、計画を立てて遂行することができているかなどを、評価します。

●その他	4 偏食や過食がある	感覚過敏の「5 特定の味覚や食感を好む(嫌う)」とも重なりますが、食事に関する特記(小食や、食に関する関心がないなど)がある場合は、「その他」に記載します。
	5 書くことがとても苦手である	本人の発達年齢を踏まえ、発達年齢に応じた能力を評価します。
	6 読むことがとても苦手である	
	9 興味のある分野の知識が豊富である	バスの路線や時刻表、カレンダー計算、アニメなど、突出した能力や知識(ピークスキル)を持っている場合があります。
●困った行動		・挙げられている行動以外にも、困った行動がある場合は、「その他」に記載します。

●服薬の有無

- ・服薬の仕方や時間を理解しているか、過剰摂取など、服薬に関する問題がないかを記入します。
- ・自身で飲むことができない場合の、援助の仕方なども記載しましょう。
- ・塗布薬や、目薬の使用についても、特記事項を記載しておきます。

●痛みや不快

- ・痛みに対する、過敏性や鈍麻があれば、併せて記載しましょう。

●治療に関しての特記(治療に関する約束や手順など)

- ・苦手なことは、その程度も併せて記載しましょう。
- ・特に、初めてのことや、受診に不安を感じている場合、本人に予告をせずに治療を行うと、不安が増大し、その後の治療がより困難になる場合もあります。予告のために、有効な方法(口頭で予告する、写真を見せる、手順書を使用する、安心グッズを持参するなど)を検討しましょう。

●睡眠について

- ・就寝時間と、起床時間を確認するとともに、入眠までの時間や、質の良い睡眠(ぐっすり眠る)がとれているかを確認しましょう。
- ・睡眠が十分にとれていない場合や、長期間睡眠に課題がある場合は、医療機関に相談した方が良い場合があります。

●苦手な食べ物・飲み物について

- ・感覚過敏が影響していることも多く、苦手なものを、無理して食べていると、余計に偏食を強めることがあります。楽しく食べることを大切に、栄養が偏る場合は、他に食べられるものやサプリメントなどで補うことも一つです。

●日常生活能力

項目	一人でできる	部分的にできる	できない	備考（必要な援助等）
例) 服を着る		○		例) ボタン付きの服は使えない
●食事				
1	スプーンやフォークで食べる			
2	箸で食べる			
3	ストローやコップで飲み物を飲む			
4	ジュースなどの飲み物をコップに注ぐ			
5	口を閉じて食べる			
6	適切な時間に食事をする			
7	食事のバランスを考えて食べる			
8				
9				
●排泄				
1	トイレで排尿する			
2	トイレで排便する			
3	排尿・便の後始末を適切にする			
4	生理の後始末をする			
5	おむつやパンツに大小便をしたときに、伝える			
6	尿意や便意を伝える			
7	誘導がなくても、自分でトイレに行く			
8	手をきれいに洗う			
9	男性用・女性用トイレの区別が付き、使用できる			
10				
●セルフケア				
1	顔を洗う			
2	歯磨きをする			
3	髪を整える			
4	ひげを剃る			
5	爪を切る			
6	入浴し、髪や体を洗う			
7	体を拭いたり、髪を乾かす			
8	不調を訴える			
9	汚れた衣服を自発的に着替える			
10	薬の管理をする			
11	体温を測る			
12	診療科を選び、予約を入れる			
13	年1回、健康診断を受ける			
14	適切に睡眠をとる			
15	ハンカチやティッシュを携帯する			
16	小さな傷の手当てをする			

●着脱				
1	服を脱ぐ			
2	服を着る			
2-a	フルオーバーや、ボタン付きのシャツを着る			
2-b	ズボン（スカート）を着る			
3	季節やTPOに合わせた服を選ぶ			
4	靴下や靴を履く			
5	スナップやボタンをとめる			
6	ジャンパーのファスナーを開け閉めする			
7	ネクタイをしめる			
8				
●家事				
1	洗濯をする			
1-a	洗濯物を取り込む			
1-b	洗濯物をたたむ			
1-c	洗濯機を使用して洗う			
1-d	洗濯物を洗濯方法別に仕分ける			
1-e	洗濯物を所定の場所に片づける			
2	掃除をする			
2-a	テーブルを拭く			
2-b	床を箒で掃く			
2-c	床を雑巾で拭く			
2-d	掃除機をかける			
2-e	ガラスを拭く			
2-f	風呂掃除をする			
2-g	トイレ掃除をする			
3	食器を洗う			
3-a	食後の食器を流しにさげる			
3-b	スポンジと洗剤を使用して食器を洗う			
3-c	洗った食器を拭く			
3-e	食器を所定の場所に片付ける			
4	買物をする			
4-a	硬貨や紙幣の種類がわかる			
4-b	値段を理解し、必要な金額を支払う			
4-c	お釣りがわかる			
4-d	頼まれた物を買ってくる			
5	簡単な調理をする			
5-a	カップ麺をつくる			
5-b	皮むき器を使って、皮をむく			
5-c	包丁を安全に使用する			
5-d	電子レンジやオーブントースターを使用する			
5-e	コンロを使用する			
6	片付けができる			
6-a	靴や持ち物を所定の場所に収納する			
6-b	脱いだ服を片付ける			
6-c	自分の部屋を整理整頓する			
8				
9				

●その他				
1	ひとりで留守番をする			
2	戸締りをする			
3	金銭管理をする			
4	公共交通機関を利用する			
5	電話をかける			
6	時計を見て時間がわかる			
7	カレンダーを見て月日や曜日がわかる			
8	スポーツや旅行など趣味の活動を行う			
9	火や刃物などの危険物を認知する			
10	自由な時間を一人で過ごす			
11	慣れた場所であれば、一人で目的地まで歩いて行く			
12	必要に応じて、テレビ、新聞などから情報を得る			
13	パソコンを使用し、情報検索、メール等をする			
14	インターネットや、電話等による勧誘などによる、危険やトラブルを察知し回避する			
15	理由もなく、不当に扱われそうときなどに、自身の権利を、正当に主張する			
16	金融機関やATMを利用する			

() さんのファイル 記入者氏名 () 続柄 () 記入年月日 (年 月 日)

●「日常生活能力」

このページでは、身辺自立や家庭生活スキル等を評価します。番号が網掛けになっている個所は、「りあん」に記載されていない項目です。その他にも、不足している項目があれば、新たに追加して記入しましょう。

<記入の仕方>

- ・「一人でできる」、「部分的にできる」、「できない」の3段階で評価します。
- ・「一人でできる」とは、生活の中で声掛けがなくても、自発的に行える場合にチェックします。声掛けや、部分的に手伝いが必要な場合は、「部分的にできる」にチェックし、具体的な状態や必要な支援を、備考欄に記載しておきましょう。

<目標設定の仕方>

- ・「できない」ことは、本人の発達段階や障害特性上、今は習得が難しい可能性があります。目標を設定する場合は、「部分的に出来る」ところの中から、少し頑張れば出来そうなところを次の目標とすると良いと思います。

- ・目標設定の際には、そのスキルを習得することで、本人や家族にとってメリットがあるのかなど、優先順位を考え、目標が多くなり過ぎないようにすることも大切です。

- ・家族と同居であっても、グループホームでの生活や、一人暮らしなど、本人にとって、より自立した生活を想定し、必要なスキルは何かを考えることが必要です。

- ・成人の場合は、新たなスキルの獲得を目標とするよりも、本人が持っている力を生かすことや、自分だけでは難しいことは、代替となるツールや、支援、サービスをうまく活用していく方法を検討することが重要になります。

- ・高齢化や、状態の変化などにより、できていることを維持していくことが、難しくなる場合もあります。そのような場合は、今の状態を維持することが目標となります。できていたことができなくなったときは、備考欄に、その旨と時期を記載して、残しておきましょう。

「●人との関わり」では、対人面の様子を観察、評価します。以下のような視点を参考にしてください。

<感情表現>

- ・感情を表しますか(笑う、泣く、叫ぶなど)。
- ・自分の気持ちを適切に表現していますか(嫌な時にも笑う、いつも無表情など、気持ちを表現する方法が独特なことがあります)。**自身の感情(悲しい、うれしいなど)を、言葉で表現することができますか。**
- ・特定の人を好む、好意を示す(笑う、身体接触するなど)あるいは、避けることがあります。
- ・身近な家族が見えないときに、探しますか。
- ・身近な人の好きなことや嫌いなこと、機嫌や感情がわかりますか。

<模倣>

- ・周りの人の行動を真似ますか。

<友達との関係>

- ・子どもが遊んでいる様子に興味を示したり、自分から近づいていき働きかけますか。
- ・友人の顔や名前を認識していますか。 ・仲の良い友だちがいたり、好意を示すことがありますか。
- ・相手が困っている時に、手を差し出したり、「大丈夫？」と気遣いを示しますか。
- ・相手に良いことがあった時に、「よかったね」などの肯定的な言葉がかけられますか。
- ・年齢相応の友人関係がありますか。**(休みの日などに友人も一緒に出掛けたり、当事者会や趣味の会などの集団へのへの参加はありますか。)**
- ・適切な距離を保って、他者と接していますか。

「●コミュニケーション」では、「本人から相手に伝えるとき」(表出性のコミュニケーション)と、「相手から本人へ伝えるとき」(受容性のコミュニケーション)の評価をします。

自閉症の方の中には、文字や文章が上手に読めたり、日常的な会話に問題がないように見えても、あまり理解ができていない等のアンバランスさを持つ場合があります。

自分の気持ちを伝えられることや、相手の話がわかることは、問題行動を防止する上でも大変重要な因子となります。フォーマルな評価を参考にすることが出来ない場合も、所属機関の中でできる評価を行い、「分かる」、「伝わる」というやりとりの成功経験を重ねられるように支援していくことが大切です。

<評価の際の視点>

●本人から相手に伝えるとき

<要求・拒否の仕方>どのような方法で相手に伝えるかを観察します。要求がうまく伝えられない場合も、選択肢を示すと、欲しいものやしたい活動を選べる場合があります。**困ったときに、援助要請を適切に行えているか、相手の立場や気持ちを考え過度な要求をしないか、なども評価します。**

<注意喚起>相手の前まで行く、相手の名前を呼ぶ(〇〇さん、先生など)、肩を叩く、ねえねえと言うなど、相手の注意をひくことができているかを確認します。独り言のように、相手に伝わりにくい方法で伝えている場合は、注意喚起がうまく出来ていないといえます。

<その他>独り言が多い、独特のイントネーション、声のボリューム調整が出来にくい、説明はできるが自分の気持ちが言えない、説明する際に時系列に話したり、誰が誰にといった説明ができない、**相手に合わせて敬語を使い分ける、雑談をする、自分から会話を切り出す、などについての特徴を評価します。**

言葉がない、咄嗟の時に肝心なことを言えないなどにより、カード等を用いている場合なども記載します。

●相手から本人に伝えるとき

<要求>指示や、して欲しいことがあるときに、どのように伝えればよいか記載します。言葉でわかるのか、写真や、絵、具体物が良いのかは、実際に生活場面で評価することができます。評価の際は視線やジェスチャーなどのヒントを与えずに、言葉だけで伝わるかなどを実際に試してみると評価が可能です。

<注意喚起>名前を呼べば聞くことが出来るか、強く注意を引き付けなければならないのかなどを観察します。

<してはいけないことの伝え方>「だめ」などの否定的なことばだと受け入れにくい場合や、ことばではなくジェスチャーの方が良い場合などがあります。本人が理解できない場合、理解できても切り替えられない場合は、その旨を記載します。

<その他>文章が書けるのに、耳で聴きとること(聴覚情報処理)がうまくできない人等があります。どれくらいの文章が理解できるのかや、指示は何段階まで実行可能かなどを確認します。

●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：
●苦手なこと、物：
●こだわりのある物、行動：
●常同行動（いつも決まってる行動、繰り返す行動）：
●不安・恐れるもの：
●予想外の事への反応、急な変化への反応：
●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（有・無・わからない）
●寡動《行動にとりかかれない。その場から動かない》（有・無・わからない）
●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（有・無・わからない）
●自傷（有・無・わからない）
●他害（有・無・わからない）
●パニック（有・無・わからない）
●気になる行動（有・無・わからない）
●その他（特徴、支援のてがかり）

（ ）さんのファイル 記入者氏名（ ） 続柄（ ） 記入年月日（ 年 月 日）

●行動特性

行動はできるだけ具体的に表記しましょう。いつ、どこで、どのような状態になるのか、その行動の強さ、理由が判る場合は理由も併せて記入しましょう。

●こだわりのある物、行動

同一性の保持といわれる特性です。同じ場所、時間、順序等で物事を行うなどにこだわる場合があります。特定の物や人にこだわったり、物の置き場所、並べることこだわる場合もあります。同じであることや、秩序だっている方が安心できると言われています。

●「常同行動」について

代表的な常同行動には、手をひらひらと振る、手を叩く、体を前後に動かす、同じ言葉を喋り続ける、同じ場所を行ったり来たりする、クルクルとその場で回る、跳びはねる」など様々です。こだわりは、本人や周囲にとって支障のないものであれば、見守っていたほうが良い場合が多いです。

●予想外の事への反応、急な変化への反応

予定や日課、手順や道順、教室などの場所や、担任など人の変更などが行われた時に、パニックになったり、不安な様子で、動きが止まってしまう場合などがあります。

●多動、不注意、衝動性(同年齢の子どもに比べて、過剰に以下のような行動が見られるかを確認します)

多動:手を離すとどこかへ行ってしまう、いつも体の一部が動いている、いつもお喋りをしているなどです。
大きくなってからも、じっとしていることが苦手で、落ち着きがない、身体が疲れているのに気づきにくいことなどがあります。

不注意:忘れ物が多い、予定や約束を忘れる、物をよくなくす、他のことに気を取られ話を聞いていない、身体をよく物にぶつけるなどが含まれます。*大人の場合は、多動性は弱まり、不注意が目立つようになることが多いです。*

衝動性:相手が話し終わらないうちに発言してしまう、確認せずに道路を渡ったり、危険な行動をしてしまう、待つことや我慢が出来ずに行動を起こしてしまうことなどがあります。

その場の感情や思いつきで行動してしまい、あれこれ手を付けて作業が最後まで進まない、よく考えずに、高額な買い物をしてしまう、転居や、結婚などの大切なことを、即決してしまうことなどがあります。

整理整頓や手順が身につかない等の特性があれば、併せて記載します。

●「寡動」～「気になる行動」

どのような行動が起こるのか、どのような時に、どれくらいの強さや頻度で生起するのか、原因や対応方法がわかる場合は併せて記載します。

●「気になる行動」の例

- ・特定の人に対する過度の依存がある
- ・学校や所属機関に行くのを拒否する
- ・過度に不安または神経質である
- ・理由がないのに悲しがる
- ・全体に活気や興味が乏しい
- ・かんしゃくを起こす
- ・いつも不機嫌である
- ・周囲の人を侮辱したり、からかったり、いじめたりする
- ・嘘をつく
- ・人の物や店の物を、許可なく使用したり、盗む
- ・他の人の働きかけに対して、故意に逆らったり、無視したりする
- ・知らない人に対して、過度に親しげに振る舞う
- ・性的な逸脱行動がある(露出、公的な場での自慰行為、不適切な性的交渉など)
- ・妄想や幻覚などがある
- ・周囲からの働きかけや、置かれた状況を、被害的に捉えがちである
- ・指しゃぶりや爪噛みをする
- ・チックがある
- ・奇妙な癖ややり方、話し方がある

●**感覚** 感覚の過敏や鈍麻がないかを評価します。感覚面では、様々な感覚において、過敏タイプ、鈍感タイプ、感覚刺激を強く求めるタイプ、感覚刺激を回避しようとするタイプがあります。どのタイプかも併せて評価します。

●**視覚**

・視線を避ける、物や人を凝視する、暗いところを好む、明るい光を避ける(目を細めたり閉じたりする)、物がたくさんあると中から探すときにイライラすることなどもあります。
・階段の上り下りをする際にためらう、色を塗ったり字を書く際に枠からはみ出る、書いた字が読みにくい場合等も、視覚情報の処理に困難がある可能性があるため、注意深く観察する必要があります。

●**聴覚**

・突然の音や大きな音に拒絶反応を示す、普通は気が付かないような音(電化製品の音など)をうるさいと感じる、音がしていると気が散って集中できない、あるいは大きな音や聞きなれない音がしても反応がない、聴覚に問題はないのに、名前を呼ばれても反応しない、聞いていないように見えることなどもあります。

●**触覚**

・べたべたした感触や汚れることを極端に嫌う、特定の生地や衣類のタグを嫌がったり、靴下を嫌がる、身体にぴったり密着するような服を嫌う場合などがあります。その他、気候に関係なく薄着あるいは厚着する、身体に触られているのに気が付かない、汚れたり、濡れていても気にならない、服が裏返しやねじれていても気が付かない場合などがあります。

●**味覚**

・味に敏感で、特定の味を嫌う、特定の物しか食べたがらない(偏食)ことがあります。
・食べ物ではないものをなめたり、噛んだり、飲み込んだりする(異食)ことがあります。

●**嗅覚**

・強においがしているのに気づいていない様子がある、特定のにおいを非常に好む、微かなにおいでも気が付くなどがあります。

●**温度覚**

・暑さや寒さ、湿度や気圧等によって影響を受けやすい場合、気候や室温によって、イライラしたり、気分が落ち込んだりして、活動レベルが下がってしまうことがあります。

●**痛覚**

・ちょっとした傷や体の変化でも敏感に感じてしまう人や、反対に痛みや体の変化に対して鈍感な人もいます。痛みに鈍感な場合は、周囲も気が付かないうちに重症化してしまうことがあります。

●**その他**

・遊具の強い揺れや回転を好む場合や、ちょっとした揺れも苦手な場合があります。揺れが苦手な人は車に乗ることが苦手なことなどがあります。
・身体の使用方では、つま先で(踵を浮かし)歩く、動きがかたい、筋力が弱いように見えるなどが見られます。

・自閉症スペクトラムの方の場合、過敏があることで、疲れやすかったり、体調を崩したりして、本来の能力が発揮できないことがあります。

・”苦手な感覚に慣れる”ことはなかなか難しく、無理すると、過敏が増す恐れもあるため、道具や環境の工夫により、苦手な刺激は、除去したり、低減できるような方法を用いる必要があります。

例) 偏食は、無理のない支援を行うことで、年齢とともに軽減されていくことも多いです。

聴覚過敏には、耳栓やイヤーマフ、ノイズキャンセリングヘッドフォンの使用が有効です。

●得意な科目・活動・作業・仕事

作業の好みや強みについて

- ・座って行うような静的な活動と、身体を動かす動的な活動では、どちらが得意か。
- ・手先を使うことや、道具の使用などの状況。
- ・具体的な作業内容があれば記載しましょう。
- ・パソコンの使用ができる場合は、ここに記載しておきましょう。
- ・スキルがあっても、本人の好みではないこともあります。好むかどうか、わかるように記載しておきましょう。

集中の持続時間

- ・集中して作業を行える時間や、休憩の取り方を記載しておくとうよいと思います。

ご褒美について

- ・「●喜ぶこと・物・関わり方」(下記)があることで、取り組みやすくなる作業や活動があれば、記載しておきましょう。

●運動能力(動作や手先の器用さ・バランスなど)

粗大運動面

- ・走る、階段の上り下り、ジャングルジムなどの高所への上り下りの状態。
- ・スキップや両足ジャンプ、片足立ちがどの程度できるか。

微細運動面

- ・小さなものを指先でつまんだり、小さなビーズを紐に通すことができるか。
- ・鉛筆の使用、ハサミの使用、その他、消しゴムや定規やコンパスなどの文具の使用について
- ・紐(くつ紐、エプロンの紐など)が結べるか。
- ・瓶のふたや、ペットボトルのふた、缶ジュースのプルタブの開閉

●特に秀でた能力(記憶・音楽・絵画など)

- ・ご本人の知的発達に見合わないほどの、強い力を持っている場合に記載します。

●落ち着く過ごし方

- ・本人が落ち着く場所や活動などを記載します。
- ・ストレスが溜まっているときや、パニックになった時のカムダウンエリアを検討する際に有効な情報となります。

●避けた方がよい関わり方など

- ・本人が不安になったり、混乱する関り方がある場合に記載します。
- ・大きな声や長い話し、否定的な言い方、身体に触れられることなどが苦手な場合があります。
- ・その他、使用しない方がよいことばなどがあれば記載します。

●困ったときや嫌なときの態度・様子

- ・困った時や嫌な時に、言葉や表情、行動等により、適切に感情を表現しているか観察します。自閉症の人の場合、困っていても、笑顔であったり、ジャンプをしたりして、一見楽しそうに見えることがあります。
- ・また、周囲の人に対し、相手がわかる方法で、助けを求めているかを観察します。

●喜ぶこと・物・関わり方

- ・適切な行動を維持していくための好子として用いるためにも、重要な情報です。
- ・言葉で誉められること、ハグや頭を撫でられることなどの身体接触が好きか、特定の物や、食べ物、活動(ぐるぐる回しやビデオ、ゲーム、公園で一緒に遊ぶ等)が与えられることを喜ぶのかなどを記載します。

●成長の過程 1

<関連の時期に斜線を記入します>

<記入例>●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人でのいるのを好む	/	/		/

●社会性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	集団より一人でのいるのを好む				
2	視線が合いにくい				
3	受身的で自らは関わりを求めない				
4	積極的に関わるが一時的になりやすい				
5	友達関係を築きにくい				
6	周囲の人の感情に気づきにくい				
7	集団の中で浮きやすい				
8	常識や暗黙の了解がわかりにくい				
9	身づくろい・身の回りの事に無頓着である				
10	口喧嘩や邪魔をする・トラブルが多い				
11	自分が非難されると過剰に反応する				
12	からかわれやすい・いじめを受けやすい				

その他

●コミュニケーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	表情が乏しい・不自然				
2	言葉での指示は理解が難しい				
3	細部にこだわり難しい言葉を使う				
4	自分の興味あることを相手構わず話す				
5	言外の意味や皮肉を理解できない				
6	言葉使い・声の調子や音が独特である				
7	会話が一方通行・応答にならない				
8	共感する動作が少ない～うなずく・身振り等				
9	状況に関係なく周りが困惑することを言う				
10	独り言が多い				

その他

●イマジネーション		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	手を振るなどの常同運動がある				
2	物集めや情報記憶に熱中する				
3	お決まりの行動パターンがある				
4	変化を嫌い、いつも通りを好む				
5	初めての場所や人は苦手である				
6	興味を示すものに偏りがある				
7	気持ちの切り替えが苦手である				
8	突然の事や急な予定変更は混乱する				
9	物のある一部等に注意が向き、没頭してしまう				

その他

●成長の過程2 <関連の時期に斜線を記入します>

●感覚過敏		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	耳ふさぎや音に敏（鈍）感な様子がある				
2	光や回るもの・鏡などの刺激を好む				
3	水などの特定の触感を好む（嫌う）				
4	物のにおいをよく嗅ぐ				
5	特定の味覚や食感を好む（嫌う）				
6	痛みに敏（鈍）感である				
7	暑さ・寒さに敏（鈍）感である				

その他

●不注意・多動・衝動性		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	うっかりミスが多い				
2	注意を集中し続けることが難しい				
3	話しかけても聞いていないようにみえる				
4	仕事をやり遂げることが難しい				
5	物事を順序立てて行うことが難しい				
6	努力を要する課題を避ける				
7	なくし物が多い				
8	注意がそれやすい				
9	忘れっぽい				
10	手足をそわそわ・もじもじすることが多い				
11	静かな活動に参加することが難しい				
12	じっとしていない				
13	しゃべりすぎる				
14	質問が終わる前に答えてしまう				
15	整理や片付けができない				

その他

●その他		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	体の使い方がぎこちない				
2	手先が不器用である				
3	寝つきが悪かったり眠りが浅い				
4	偏食や過食がある				
5	書くことがとても苦手である				
6	読むことがとても苦手である				
7	歩き方・姿勢の異常がある				
8	人の顔が覚えられない				
9	興味のある分野の知識が豊富である				

その他

●困った行動		0歳	6歳	12歳	18歳以上
1	自分を傷つける				
2	他人に粗暴な行為をする				
3	物を壊す				
4	水分を多飲する				
5	性的な行動が逸脱している				

その他

II. 現在の状態 ①

●所属機関

所属機関名（学年）：

所属機関先： 〒

●健康

●身長（ ）cm ・ 体重（ ）kg ・ 平熱（ ）度

●現在の健康状態 < 心臓疾患・てんかん発作・ぜんそく発作・アトピー・その他の疾患（ ） >

具体的な症状と対処方法：

●アレルギーの有無 < 食物・動物・植物・ハウスダスト・その他（ ） >

具体的な症状と対処方法：

●服薬の有無 < 有 ・ 無 >

管理・服薬の仕方：

●「痛み」「不快」（頭痛・歯痛・吐き気・熱・鼻血などの症状）の訴え方

観察のポイントと対処方法：

●治療に関しての特記（治療に関する約束や手順など）

●睡眠について

●食事

●食欲や偏食（あり ・ なし）

●好きな食べ物・飲み物（成人期の場合は、嗜好品も含む）

●苦手な食べ物・飲み物

●日常生活能力

項 目		一人で できる	部分的に できる	できな い	備考（必要な援助等）
例) 服を着る			○		例) ボタン付きの服は使えない
●食事					
1	スプーンやフォークで食べる				
2	箸で食べる				
3	ストローやコップで飲み物を飲む				
4	ジュースなどの飲み物をコップに注ぐ				
5	口を閉じて食べる				
6	適切な時間に食事をする				
7	食事のバランスを考えて食べる				
8					
9					
●排泄					
1	トイレで排尿する				
2	トイレで排便する				
3	排尿・便の後始末を適切にする				
4	生理の後始末をする				
5	おむつやパンツに大小便をしたときに、伝える				
6	尿意や便意を伝える				
7	誘導がなくても、自分でトイレに行く				
8	手をきれいに洗う				
9	男性用・女性用トイレの区別が付き、使用できる				
10					
●セルフケア					
1	顔を洗う				
2	歯磨きをする				
3	髪を整える				
4	ひげを剃る				
5	爪を切る				
6	入浴し、髪や体を洗う				
7	体を拭いたり、髪を乾かす				
8	不調を訴える				
9	汚れた衣服を自発的に着替える				
10	薬の管理をする				
11	体温を測る				
12	診療科を選び、予約を入れる				
13	年1回、健康診断を受ける				
14	適切に睡眠をとる				
15	ハンカチやティッシュを携帯する				
16	小さな傷の手当てをする				

●着脱					
1	服を脱ぐ				
2	服を着る				
2-a	プルオーバーや、ボタン付きのシャツを着る				
2-b	ズボン（スカート）を着る				
3	季節やTPOに合わせた服を選ぶ				
4	靴下や靴を履く				
5	スナップやボタンをとめる				
6	ジャンパーのファスナーを開け閉めする				
7	ネクタイをしめる				
8					
●家事					
1	洗濯をする				
1-a	洗濯物を取り込む				
1-b	洗濯物をたたむ				
1-c	洗濯機を使用して洗う				
1-d	洗濯物を洗濯方法別に仕分ける				
1-e	洗濯物を所定の場所に片づける				
2	掃除をする				
2-a	テーブルを拭く				
2-b	床を箒で掃く				
2-c	床を雑巾で拭く				
2-d	掃除機をかける				
2-e	ガラスを拭く				
2-f	風呂掃除をする				
2-g	トイレ掃除をする				
3	食器を洗う				
3-a	食後の食器を流しにさげる				
3-b	スポンジと洗剤を使用して食器を洗う				
3-c	洗った食器を拭く				
3-e	食器を所定の場所に片付ける				
4	買物をする				
4-a	硬貨や紙幣の種類がわかる				
4-b	値段を理解し、必要な金額を支払う				
4-c	お釣りがわかる				
4-d	頼まれた物を買ってくる				

5	簡単な調理をする				
5-a	カップ麺をつくる				
5-b	皮むき器を使って、皮をむく				
5-c	包丁を安全に使用する				
5-d	電子レンジやオーブトースターを使用する				
5-e	コンロを使用する				
6	片付けができる				
6-a	鞆や持ち物を所定の場所に収納する				
6-b	脱いだ服を片付ける				
6-c	自分の部屋を整理整頓する				
8					
9					
●その他					
1	ひとりで留守番をする				
2	戸締りをする				
3	金銭管理をする				
4	公共交通機関を利用する				
5	電話をかける				
6	時計を見て時間がわかる				
7	カレンダーを見て月日や曜日がわかる				
8	スポーツや旅行など趣味の活動を行う				
9	火や刃物などの危険物を認知する				
10	自由な時間を一人で過ごす				
11	慣れた場所であれば、一人で目的地まで歩いて行く				
12	必要に応じて、テレビ、新聞などから情報を得る				
13	パソコンを使用し、情報検索、メール等をする				
14	インターネットや、電話等による勧誘などによる、危険やトラブルを察知し回避する				
15	理由もなく、不当に扱われそうなどときに、自身の権利を、正当に主張する				
16	金融機関やATMを利用する				

() さんのファイル 記入者氏名 () 続柄 () 記入年月日 (年 月 日)

●人との関わり

●家族との関わり：
●友人（同世代の人）との関わり：
●周りの大人（先生や支援者など）との関わり：
●知らない人との関わり：
●社会的常識・ルールを理解：

●コミュニケーション

◇主なコミュニケーションの方法（○をつける） 実物 絵 写真 文字 言葉 ジェスチャー その他（	
●本人から相手に伝えるとき	●相手から本人へ伝えるとき
《要求》	《要求》
《注意喚起》	《注意喚起（気づいてほしいとき）》
《拒否の仕方》	《してはいけないことの伝え方》
《その他（特徴、支援のてがかり）》	《その他（特徴、支援のてがかり）》

●行動特性

●得意なこと・興味・関心のあること、物：
●苦手なこと、物：
●こだわりのある物、行動：
●常同行動（いつも決まってする行動、繰り返す行動）：
●不安・恐れるもの：
●予想外の事への反応、急な変化への反応：
●多動・不注意・衝動性《忘れ物・整理整頓などを含む》（有・無・わからない）
●寡動《行動にとりかかれぬ。その場から動かない》（有・無・わからない）
●緘黙《人や場面によっては全くしゃべらない》（有・無・わからない）
●自傷（有・無・わからない）
●他害（有・無・わからない）
●パニック（有・無・わからない）
●気になる行動（有・無・わからない）
●その他（特徴、支援のてがかり）

●感覚

◇感覚の問題や配慮すべき点（各項目に○をつける）

●視覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：光や太陽に反応する、換気扇など回転するものを見る、鏡を見入る、など》

●聴覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：大声や泣き声を嫌う（怖がる）、嫌いな音に対して耳をふさぐ、雨の音など小さな音を騒音に感じる、など》

●触覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：人に触られることを嫌う、水圧を楽しむ、爪切りをすると痛がる、など》

●味覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：何でも口に入れたがる、異食、偏食、など》

●臭覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：物の臭いを嗅ぐ》

●温度覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：暑さや寒さに敏感・鈍感》

●痛覚（ある ・ 特になし ・ わからない）

《例：痛みに敏感・鈍感》

●その他

《例：ぐるぐる回ることが好き、ギュウーッと圧迫される感覚を好む、狭い場所が落ち着く、特定の音が苦手、など》

●学習・作業能力など

◇幼児期は活動。学齢期は科目。成人期は作業・仕事として得意および不得意を記入します。

●得意な科目・活動・作業・仕事

●不得意な科目・活動・作業・仕事

●運動能力（動作や手先の器用さ・バランスなど）

●特に秀でた能力（記憶・音楽・絵画など）

●落ち着く過ごし方

●避けた方がよい関わり方など

●困ったときや嫌なときの態度・様子

●喜ぶこと・物・関わり方

りあんを活用したアセスメントの手引き使用についてのアンケート

記入日(年 月 日) 氏名() 経験年数(年)

1 記入しやすさについての感想を記入してください。

--

2 記入に要した大体の時間を記入してください。

[]

3 記入することで、対象者についての理解が深まった点がありましたか。
深まった点がある場合は、具体的に記入してください。

--

4 対象者を理解するために、不足している情報や、変更したほうが良い点を教えてください。
不足している情報や変更したほうが良い点等を、具体的に記入してください。

--

5 このツールを、現場で活用することへの可能性について、ご意見をお聞かせください。

--

6 このツールを、活用する場合に、難しい点はどのようなことですか。

--

7 現場で活用する場合に、どのような支援が必要ですか。最も有効だと思うものに丸を付けてください。
(○を記入)

① ツールの活用方法についての研修会	
② ツールの活用方法についての職場の勉強会への講師派遣	
③ つばさのホームページに、マニュアルや、記入例を掲載し、自由に閲覧できるようにする	
④ その他 (有効だと思う方法を、自由に記述ください)	